

平成30年度事業報告

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

[総括]

平成30年度収支決算の結果は、収入248,978,320円に対し、支出は253,390,562円で4,412,242円の赤字を計上しました。その結果、正味財産の期末残高は44,033,842円となりました。

事業内容を展望すると、自治体が保有する消防自動車、救急車、塵芥収集車などを整備し直して開発途上国に贈与する、いわゆるリサイクル援助事業では30年度は20カ国に26件、47台の車両等を寄贈できました。事業規模は170,742,957円に上ります。

また在外公館施設におけるエンジニア派遣業務については30年度分入札のうち4案件を受注。自家発電装置の保守点検専門技術者派遣業務で2件を受注した結果、延べ77名のエンジニアを26カ国(26公館)に派遣しました。事業規模は45,436,785円でした。

約440万円の赤字となった主な原因は前年度に比べ事業収入が約1300万円減ったこと。これは前年度のリサイクル援助事業が空前の2億3860万円という事業規模になったのに比べ、30年度は平年並みに落ち着いたため、事業規模で約3800万円縮小したことが大きかったとみられます。また、事務局の体制整備のため、中堅職員を雇用したこともあって給料手当などがふくらんだことも影響しました。

今度の決算には反映されませんでした。3月末に波多野澄雄編著『日本外交の150年』を発行しました。税抜き定価3800円で当面3000部を印刷しました。この本が売れないと、大きな赤字を抱えることとなります。著者の波多野先生や外務省と組みながら、いかにこの本を売っていくかが令和元年度の大きな課題となっています。

[公益目的事業／継続事業]

1. 国際知識に関する普及及び調査研究事業

月例講演会の開催 — 国際情勢の研究と外交政策の広報

原則として毎月1回、日本記者クラブにおいて国際問題講演会を開催している。講師は主として外務省の幹部を招いて実施しており、外交政策の普及に努めている。平成30年度の開催実績は下記の通り。

〔平成30年度〕				
日付	例会名	講師 役職	講師氏名	演 題
4/11	4月例会	外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課地域調整官	井川原 賢 氏	中国全人代について
5/14	5月例会	外務省 アジア大洋州局 参事官	志水 史雄 氏	北朝鮮情勢と我が国の対北朝鮮政策
6/18	6月例会	外務省 欧州局 審議官	相木 俊宏 氏	最近のロシアの動向と日露関係
7/11	7月例会	外務省 アジア大洋州局 南部アジア部 参事官	志水 史雄 氏	東南アジア情勢
9/14	9月例会	外務省 欧州局 局長	正木 靖 氏	日本の対欧州外交
10/22	10月例会	外務省 中南米局 局長	中前 隆博 氏	中南米情勢について
11/28	11月例会	外務省 中東アフリカ局 アフリカ部長	牛尾 滋 氏	アフリカと日本
12/14	12月例会	外務省 北米局 局長	鈴木 量博 氏	中間選後のアメリカ政治
1/21	新年例会	外務省 事務次官	秋葉 剛男 氏	変貌する国際情勢と日本の外交
2/13	2月例会	外務省 アジア大洋州局 参事官	田村 政美 氏	朝鮮半島情勢と日韓・日朝関係
3/11	3月例会	公益財団法人日本国際交流センター 執行理事	毛受 敏浩 氏	「日本は移民受け入れに向かうのか? —政府の新政策の課題と展望—」

2. 在外公館支援に関する事業

外務省の入札案件であるが、当協会の恒例事業となっている。

在外公館施設におけるエンジニア派遣業務 4件を受注

自家発電装置保守点検専門技術者派遣業務 2件を受注

30年度は、延べ77名のエンジニアを26カ国（26公館）に派遣している。

派遣実績・国名及び公館名：

【欧州】（1公館）ドイツ：ハンブルグ総、

【アジア】（13公館）インド：インド大、インド：インド大、インド：チェンナイ総、インドネシア：スラバヤ総、インドネシア：マダラ総、スリランカ：スリランカ大、ネパール：ネパール大、パキスタン：パキスタン大、カチ：カチ大、バングラデッシュ：バングラデッシュ大、東ティモール：東ティモール大、ブルネイ：ブルネイ大、マレーシア：コタキナバル領、タイ：タイ大、ベトナム：ベトナム大、

【中東】（1公館）ヨルダン：ヨルダン大

【大洋州】（4公館）トンガ：トンガ大、マーシャル：マーシャル大、ミクロネシア：ミクロネシア大、バヌアツ：バヌアツ大

【中南米】（2公館）キューバ：キューバ大、ホンジュラス：ホンジュラス大

【アフリカ】（3公館）ガーナ：ガーナ大、ベナン：ベナン大、セーシェル：セーシェル大

3. 海外援助に関する事業

リサイクル援助

日本国内で役割を終えた消防自動車や救急車、塵芥収集車などを自治体から譲り受け、整備し直して開発途上国に寄贈している。

30年度は別表のとおり、20カ国に26件、47台の車両を寄贈した（内訳：消防車19台、はしご車3台、救急車18台、献血車1台、図書館車2台、塵芥収集車4台）。このうち7案件については機材到着時に技術者を派遣して、現地の人材育成を目的とした短期研修を行う。

（表内、*印は短期研修を実施）

国名	契約時期	要請団体	提供機材
ウガンダ	H31年3月	セントジョセフ病院	救急車1台
トーゴ	H31年2月	アタパメ市	消防車3台
ブルキナファソ	H31年2月	日本ブルキナファソ友好協会	救急車2台
南アフリカ共和国	H30年10月	NGO SAPESI (西ケープ州)	図書館車2台
レソト王国	H30年10月	キリスト教保健協会	救急車1台（新横浜ロータリークラブによる仲介）
クック諸島	H31年1月	ティムリモティア消防署	*はしご車1台
ナウル	H31年3月	国家防災危機管理庁	*消防車2台
バヌアツ	H31年3月	サント島消防局	*消防車1台
パプアニューギニア	H30年11月	パプアニューギニア消防局	*はしご車2台
パプアニューギニア	H31年2月	エンガ州	救急車6台
アルゼンチン	H31年1月	プエルトリコ市義勇消防隊	水槽車1台
アルゼンチン	H31年3月	サンテルモ義勇消防隊	消防車1台
ウルグアイ	H31年3月	アルティガス県	巡回診療車1台
エルサルバドル	H31年3月	消防庁	消防車2台
コロンビア	H31年3月	バジェ県	消防車4台
チリ	H31年2月	カニエーテ消防団	消防車1台
チリ	H31年3月	コキンボ消防団	消防車1台
ドミニカ共和国	H30年12月	ハラバコア市消防局	消防車1台
ドミニカ共和国	H31年3月	モンテクリスティ消防隊	*消防車1台
キルギス	H31年3月	NGO 山岳レスキュー隊	*救急車4台
カンボジア	H31年3月	シエムレアプ県	救急車2台
カンボジア	H31年3月	カンダール県	救急車1台
カンボジア	H31年3月	コンポンスプー県	救急車1台
スリランカ	H31年3月	ジャフナ市	*塵芥収集車4台
フィリピン	H31年3月	ドン・ガロ・バラカ消防隊	防火服一式
モルジブ	H31年3月	国家災害管理庁	消防車1台

国際コンサルタント業務に関する懇談会

外務省国際協力局の幹部と国際開発コンサルタント業界との意見交換会を年数回の割合で実施している。ODAを効率的かつ効果的に実施するため、途上国のニーズに関する情報交換や援助の進め方について議論を交わしている。

翻訳事業

平成30年度も地方自治体、公益団体、企業、個人などから翻訳業務を受託した。受注言語としては英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語があり、受注内容としては広報資料、技術マニュアルなどがあつた。

[その他の事業]

出版

3月末に『日本外交の150年』を出版した。30年度はPR経費などとして仕掛品の名目で63万円を計上したが、本格的な計上は令和元年度から。

機関誌「日本外交協会報」の発行

日本外交協会の会報は、例会の行われた月に講師の講演内容を中心に編集して発行している。外交は国民の支援と協力があつてはじめて成果をあげることができるという観点から、可能な限り外務省の政策広報に力を入れている。配布先は会員のほか外務省、在外公館、自治体、関連団体など。

講師派遣

昨今の世界情勢などについて正確な情報を提供するため、大使OB、国際関係を研究する学者や外務省幹部などを企業や各団体に派遣している。

学生会議、シンポジウムなどへの後援、協力

日ロ学生会議、日韓学生会議など二国間の学生が一同に会して議論し、友好を高める活動を設立以来、支援しているほか、国際交流団体などが実施するイベントを支援している。

以上